Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-16

第6章文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」（平成18年度）採択事業

河島，真

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,6(平成19年度事業報告書):83-85

(Issue Date)
2008-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002289

第6章

文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」（平成一八年度）採択事業

地域文化を担う地歴科高校教員の養成

文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」（平成18年度）採択事業

地域文化を担う地歴科高校教員の養成

神戸大学文学部では、平成18年度・文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」に採択された「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」プロジェクトを、平成18年度と平成19年度の２年間にわたって実施してきた。以下は、平成１９年度事業の概要である。

御影高校「総合的な学習の時間」との連携

今年度の前期には、学部学生向けの「地歴科教育発展演習」と大学院博士前期課程学生向けの「地歴科教育応用演習」を開講し、御影高等学校第２学年（２年５組・総合人文類型）の「総合的学習の時間」とリンクさせ、高校における地域文化をテーマとする班別課題研究の指導を組み込んだ演習を行った。

５月までを準備期間とし、６月から９月にかけてフィールドワークも含めて計８回の連携授業を行った。５月までの期間や実習が予定されていない週には、地歴科教育に関する講義、授業の準備、模擬授業などを随時行った。課題学習の成果は、班ごとにパワーポイントにまとめて発表を行い、最も優れていると評価された学習成果は、学年全体の課題学習発表会でも発表された。

発達科学部附属住吉中学校での教育実習

７月６日（金）５時限目に、神戸大学発達科学部附属住吉中学校第１学年の社会科（歴史的分野）で、地域文化をテーマにした教育実習を実施した。「地歴科教育発展演習」「同応用演習」受講生のうち３人がチームを組んで教材研究などの準備を行い、そのうち１名（東洋史学専修３年生）が授業を担当した。事前に、「地歴科教育発展演習」「同応用演習」の時間を活用して模擬授業を行い、さらに授業後には附属住吉中学校教諭による講評を得た。

授業では、生徒たちにとって身近な神戸の洋菓子と、教科書中の出来事にすぎない第一次世界大戦とを結びつけることによって、第一次世界大戦への理解を深め、また身近なものが歴史的な出来事に結びついていることを理解させることを目的とし、題材として第一次世界大戦時にドイツの租借地であった青島から日本に連行され、神戸で洋菓子店を開業したユーハイムを取り上げた。

GISを活用した地理教育

８月１日（木）、兵庫県立東播磨高等学校の小橋拓司教諭と生徒を神戸大学に招き、GISを活用した公開授業を実施していただいた。数名の学生・大学院生が事前にGISを学んで授業に参加し、大学院生１名が授業の一部を担当した。

高校生・高校教員・大学生・大学教員によるフィールドワーク

８月21日（火）に高校生・高校教員・大学生・大学教員が一緒に神戸市内にある遺跡や歴史文化施設をめぐるフィールドワーク「摂津・播磨の歴史・地理・文化―海と陸からの検証―」を実施した。見学に当たっては、神戸市立埋蔵文化財センターや神戸市立博物館の職員から説明を受け、歴史文化施設の概要と活用方法などについても学んだ。

兵庫県高等学校教育研究会（地理歴史・公民）部会夏期授業研究会への参加

８月24日（金）午後に、神戸市立科学技術高等学校で開催された兵庫県高等学校教育研究会（地理歴史・公民）部会夏期授業研究会で、前年度からこのプロジェクトに参加している学生（日本史学専修４年生）が、プロジェクトの内容、成果及び課題について体験を交えて報告し、現職教員の意見を訊いた。

卒業生フォーラム

８月28日（火）に神戸大学百年記念館を会場として、神戸大学文学部・文学研究科・文化学研究科を卒業・修了した社会科・地歴科の現職・元職教員に集まってもらい、社会科・地歴科教育の現状と課題、このプロジェクトの意義と課題等について意見を交換した。

淡路フィールドワーク

10月21日（日）に、近代神戸の名望家・武井伊右衛門の回顧録に登場する淡路島の歴史文化をめぐるフィールドワークを実施した。

早稲田大学教育学部「ことばの力」GPとの交流

神戸大学文学部の教員養成GPでは、昨年度から早稲田大学教育学部の教員養成GP「言葉の力を創生する教員養成プログラム―世界へひらく国語教育のために―」（通称「ことばの力」）との交流を重ねてきた。一方は文学部における地歴科教員の養成、他方は教育学部における国語科教員の養成という点で異なってはいるが、高等学校における人文系教科教育を担える人材育成を目的としている点でこの2つのプロジェクトは共通している。

そこで昨年11月開催の早稲田祭に合わせて同大学の教員養成GPのグループが実施した「GPまつり」に学生を派遣し、本学におけるGPの取り組みを報告すると共に、早稲田大学の取り組みを学ぶ機会を設けた。

「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」研究フォーラム

文部科学省「資質の高い教員養成推進プログラム」の支援を得て神戸大学文学部が取り組んできた「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」事業を踏まえ、①地域文化の保存・活用・再生の課題、②地歴科教育と地域文化との連動の課題、③地域文化を担う地歴科高校教員を養成するため大学が地域の高等学校と連携する課題について考えることを目的として、12月2日（日）に神戸大学瀧川記念学術交流会館（大会議室）を会場として、上越教育大学二谷貞夫名誉教授をはじめ大学教員、高校教員、教育委員会関係者、自治体関係者を招き、「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」研究フォーラムを開催した。前半は事業説明に続き、御影高校での課題学習成果の発表、このプロジェクトに参加した学生からの報告、御影高校教員によるコメント、二谷名誉教授からのコメントなどを行い、後半は兵庫県教育委員会指導主事、神戸大学教職課程専門委員長などを交えたフォーラムを行った。

御影高校での日本史・世界史・地理の教育実習

12月から2月にかけて御影高校で地域文化を取り入れた日本史・世界史・地理の教育実習を行った。12月18日（火）に行った世界史Aの教育実習（西洋史学専修2年生が担当）では、発達科学部附属住吉中学校での実習で取り上げたユーハイムを高校生向けの教材にアレンジし、第一次世界大戦の世界大戦としての歴史的意義を理解させる授業を行った。2月7日（木）に行った日本史Bの教育実習（日本史学専修3年生が担当）では、御影高校が位置する旧御影村の「村明細帳」と「年貢皆済目録」を取り上げ、近世の村の多様な側面と村請制と呼ばれる江戸時代の支配システムを理解させる授業を行った。2月19日（火）に行った地理Bの教育実習（日本史学の大学院博士前期1年生が担当）では、明治・大正期の神戸の電力供給状況から出発し、現代における資源・エネルギー（特に電気エネルギー）の利用をめぐる課題を明らかにし、今後の展望を考えるという授業を行った。

事業検証協議会

3月3日（月）には、平成19年度の事業を検証し評価を受けるため、高校教員、兵庫県教育委員会指導主事、文書館・資料館等専門職員などを招いて、「平成19年度事業検証協議会」を開催